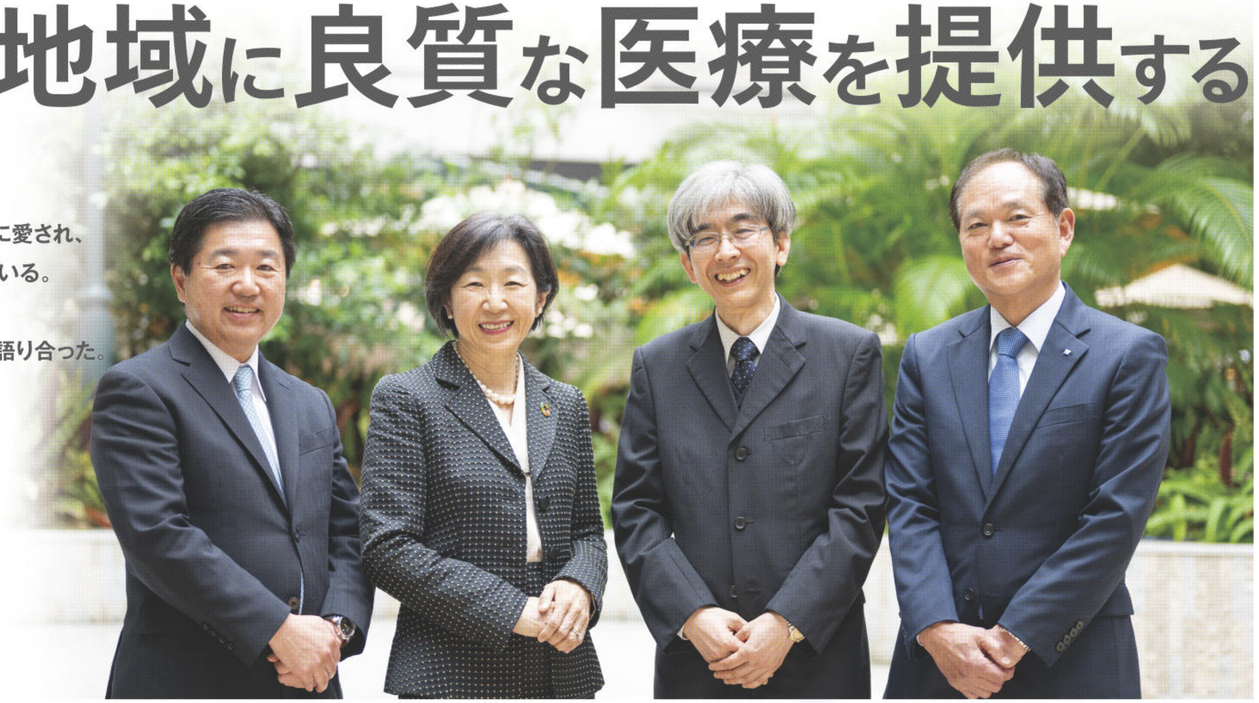
まち・ひと・医療
Partnership

病院・大学・行政のパートナーシップで、地域に良質な医療を提供する

水戸赤十字病院（水戸市三の丸）は昨年、創立100周年を迎えた。開設以来、県央地域の中核病院として、県民の医療を支えてきた。病院の理念「人道・博愛の赤十字精神」の下、基本方針である「地域に愛され、信頼される病院」を目指し、1世紀の長きにわたり地域に根を張っている。次の100年に向けて歩みを進める同病院について、野澤英雄院長、高橋靖水戸市長、富田敬子常磐大・短大学長の3人が語り合った。

（聞き手は沼田安広・茨城新聞社 社長）



写真左から、高橋靖 水戸市長、富田敬子 常磐大学・常磐短期大学 学長、野澤英雄 水戸赤十字病院 院長、沼田安広 茨城新聞社 社長。

――水戸赤十字病院は2023年6月に創立100周年を迎えました。これまでの歩みをお聞かせください。

野澤　当院は、1923年6月14日、旧水戸城の一郭である現在地に開設しました。100年の歴史を紐解きますと、大きな出来事として、空襲での病院焼失と復興があります。先人たちは、建物や医療機器の全てを失うという厳しい試練に、「苦しんでいる人を救う」「医療を止めない、諦めない」という不屈の精神をもって挑み、被災から1年5か月後には同じ場所に再建。以来、水戸の地で診療を続けてきました。

東日本大震災では、停電で真っ暗な中、非常用電源で発電した光を頼りに住民の皆さんが病院に集まってきました。市民の生活の中にある病院として、心の支えになれたのではと感じました。

新型コロナウイルスの感染拡大では、前例のない手探り状態での対応となり、情報共有や資材の確保などの困難に直面しましたが、なんとか乗り切ることができました。

地域の皆さんの温かい声、医療の現場を支えてきた諸先輩方、そしていまこの時も働いてくれている職員のおかげで、100年の歴史を紡ぐことができたと感謝しています。

―― 水戸市は2020年に中核都市となり、 今年は市政135周年を迎えます。

高橋　本年3月に、新たなまちづくりの指針となる「水戸市第7次総合計画」を策定しました。将来的な人口減少が避けられない中でも、持続的発展を実現するため、将来都市像を「こども育む　くらし楽しむ　みらいに躍動する　魁のまち・水戸」と掲げ、まちの個性と魅力を伸ばしながら、将来にわたって発展し、暮らしたいと思える都市を目指していきます。

その実現の原動力となるのは「人」です。そのため、「こどもたちの育成」を最重点に、「経済発展」と「安心して暮らせる環境づくり」にも取り組み、明るい未来を展望できる都市づくりを進めます。

――常磐大は昨年、創立40周年を迎えました。看護学部も開設されて5年が経ちます。

富田　常磐大は2023年に創立40周年を迎えました。看護学部は18年に誕生しました。看護師、保健師、養護教諭など、地域の健康課題の解決に貢献できる幅広い看護系人材を育成することを目的に、日々変化する地域の実情に柔軟に適応できる実践力と専門知識の習得に力を入れたカリキュラムを提供しています。設立以来、既に200人を超える看護師を輩出しています。

さらに22年には、大学院看護学研究科を新設しました。社会を先導する保健医療人材、特に実践者リーダー及び高度実践看護師、教育研究者を養成しています。看護分野における実務経験者を学生として募り、看護職の学びを次世代へ循環させる仕組みをつくっています。

――水戸赤十字病院は水戸医療圏の中核病院として、地域医療を支えています。地域との関わりや重要性についてお聞かせください。

野澤　設立以来100年間、地域とともに歩んできました。現在も水戸市とその近隣市町村の患者さんが8割弱を占めています。少子高齢化が進む中で人生120年時代が見え始める中、地域の皆さんの健康を支えるために、どの部分に資源を投入するかを見極め、実行していくことが、病院の存続と地域の発展につながっていくと考えています。

水戸赤十字病院 院長　野澤 英雄

のざわ　えいゆう/1967年東京都生まれ。1992年東邦大学医学部卒業。1998年水戸赤十字病院に入職。2024年4月1日から水戸赤十字病院院長に就任。医学博士、日本泌尿器科学会指導医・専門医、専門分野は尿路性器腫瘍学、男性不妊症、性機能障害及び内視鏡手術。

常磐大学・常磐短期大学 学長　富田 敬子

とみた　けいこ/1958年水戸市生まれ。東京女子大学卒業。米国フォーダム大学大学院博士課程修了。社会学博士。1988年在ニューヨーク国連経済社会分析局に入職。国連アジア太平洋地域経済社会委員会人口・社会統合課課長、国連経済社会局統計部次長を歴任。帰国し、2019年から現職。併せて総務省統計委員会委員、茨城県教育委員会委員も務める。

水戸市長　高橋 靖

たかはし　やすし/1965年水戸市（旧常澄村）生まれ。国会議員秘書を経て、水戸市議会議員3期、茨城県議会議員2期。2011年5月の水戸市長選に初当選し、現在4期目。2023年6月からは茨城県市長会会長も務める。

医師不足地域などで一定期間従事することを条件に修学資金を貸与する「地域枠」で医師の道を選んだ人も、期間満了後にどこで働くかは悩んでいるようです。

医師にとっても、救える病院の中から新たな活躍の場を選ぶのは、暮らしに関わる大きな決断になります。業務内容はもちろん、ここで暮らすメリットを具体的にイメージできるように伝えていきたいと思っています。

――看護学部を設置する常磐大やその学生にとって、水戸赤十字病院を始めとした地域の病院は身近な施設だと思います。どのように関わっているのでしょうか。

富田　常磐大は、地域に根差した教育と研究を進めることによって、地域とともに発展していく大学を目指しています。ですから、地域の関係機関・諸団体との連携を、とりわけ重んじています。学生は、在学中から地域病院において見学実習、臨地実習などの機会を得て、地域の生命と健康を預かる医療現場における看護の役割について知見を深めていきます。

――大学と水戸赤十字病院の具体的な連携はありますか。

富田　約8割が県内に就職を希望する本学看護学科の学生にとって、水戸赤十字病院は大変人気の高い就職先の一つです。これからも積極的な連携を図り、茨城県の医療人材の育成のために協働したいと願っています。

今後は、病院との共同研究にも取り組みたいと考えています。災害や外国人支援など、地域課題に即した研究を進めていきたいです。

――水戸市民がこれからの地域医療に期待することは何でしょう。

高橋　市民の生命と健康を守っていくために、必要な時に必要な医療を受けることができる医療提供体制がしっかりと確保されていることが重要です。

そのため、救急医療などの政策医療を担う公的病院などへの運営支援を行うほか、市休日夜間緊急診療所を365日開設し、緊急時における医療の確保に取り組んでいます。

――中でも水戸赤十字病院に期待することは何でしょうか。

高橋　高齢化が進む中で救急医療の需要が減ることはありません。24時間365日の診療体制を維持し、必要な医療が受けられることを期待します。

加えて、安心して子どもを産み育てられる環境整備にも期待しています。水戸赤十字病院は地域周産期母子医療センターに指定されています。同センターがあることで、若い人が安心して出産育児を迎えられ、まちに人が集まる好循環につながるのではないでしょうか。

病院への補助制度や医師修学資金制度を通して市も支援していきます。

――富田学長は元国連の職員でSDGs（持続可能な開発目標）の策定に関わったと伺っています。SDGsの観点からみた地域医療をどのようにお考えでしょうか。

富田　人々が健康で安心して暮らせる社会をつくることは、多くの政府の長年の関心事であり、国連も、全ての人に健康的な生活を確保し福祉を推進することは持続可能な開発に欠かせないとして優先課題の一つとして位置付けてきました。2015年に国連で採択されたSDGsにおいても、17のゴールのうちゴール3に、健康と福祉に関する課題を掲げています。

地域における保健・医療システムの充実は、SDGsの推進に大きく貢献することが期待されています。特に、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの推進は、地域住民のソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）を促すだけでなく、保健・医療サービスの地域格差の是正にもつながるものと認識しています。

――医療の観点から、これからの水戸赤十字病院の地域との関わり方や地域医療の未来について、どのようにお考えでしょうか。

野澤　ソーシャル・インクルージョンの実現には、地域の医療機関や介護福祉施設との強固なパートナーシップが不可欠です。高齢社会では、これまで以上に暮らしと医療、介護が密接に関わります。ここにいる誰もが、必要な時に、暮らしの延長線上で良質な医療にアクセスできることが、地域医療の理想的な未来だと考えています。水戸赤十字病院は、茨城県の医療インフラを支える一員として、この先も時代とニーズに即応した理想の病院像を立ち止まることなく追い続けていきます。

地域に愛され、信頼される病院として

水戸赤十字病院の強み

1 茨城県がん診療指定病院

手術・放射線治療・化学療法などの複数の治療法を組み合わせる集学的治療や、在宅復帰の支援や終末期のケアなど、幅広いがん治療を行っています。

2 地域周産期母子医療センター

産婦人科や小児科を始め関係する医師とスタッフが連携を図り、安心して妊娠・出産できる環境を整えています。

3 災害拠点病院

災害時に被災者を受け入れ、地域の医療機関の支援を行います。また、災害発生から48時間以内に救護活動を行う災害医療派遣チーム「DMAT」を配備しています。

泌尿器科・外科・産婦人科

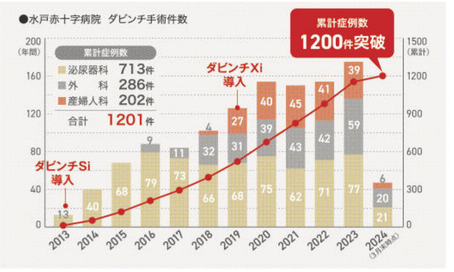
ロボット支援手術 ダビンチ手術

2013年から導入

ロボット支援手術（ダビンチ手術）とは、ダビンチサージカルシステムという手術支援ロボットを用いて行う内視鏡手術のことです。医師が操縦席からロボットを遠隔操作し、繊細な手の動きを再現するアームと3Dの拡大画像のもと、病変部位の摘出などを行います。

ダビンチ手術の特徴

- 傷口が小さく痛みが少ない
- 手術中の出血が少ない
- 術後の回復が早いため、入院期間が短く済み、早い社会復帰ができる
- 機能温存ができる
- 当院のダビンチ手術は全て保険適用されている



当院は2013年に泌尿器科、続いて外科、産婦人科とダビンチの領域を広げてきました。この3つの診療科は当院の主力の診療科であり、ダビンチを取り入れたことで更に可能性を伸ばし続けています。

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸3丁目12番48号
TEL 029-221-5177　FAX 029-227-0819

病床数／387床
一般病床…378床　感染病床…9床

診療科目／25科目
内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、リウマチ科、血液内科、脳神経内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、緩和ケア内科

施設認定一覧［一部］
地域医療支援病院、茨城県がん診療指定病院、災害拠点病院、DMAT指定医療機関、地域周産期母子医療センター、第二種感染症指定医療機関、エイズ診療拠点病院、第二次救急医療施設、人間ドック健診施設機能評価認定施設、地域リハビリテーション広域支援センター

水戸赤十字病院
日本赤十字社

水戸赤十字病院HP